

# 乳癌におけるFOXA1、GATA-3発現と分子サブタイプとの関連

## 【はじめに】

現在、予後良好な乳癌に対する化学療法の必要性が疑問視されるようになった。またER, GATA-3, FOXA1の発現により、ホルモン感受性を予測できる可能性が示唆されている。したがって、これらがホルモン感受性制御を予測する新しいマーカーとなり得るかを検討する。

## 【研究内容】

乳癌組織におけるGATA-3、FOXA1の発現を免疫組織化学により評価します。  
2000-2006年に手術が施行され、ER,PgR,HER2,nuclear gradeが判明している乳癌症例 160例を対象とします。  
乳癌組織におけるGATA-3、FOXA1の発現と臨床病理学的因子、分子サブタイプ、予後、術後補助療法との関連を解析します。  
再発症例のうちホルモン療法を行なった症例においてもGATA-3、FOXA1の発現解析を行い、治療効果との関連について解析します。

## 【研究期間】

研究を行う期間は平成24年3月までと考えております。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。  
もし対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【医学上の貢献】

この研究により乳癌におけるFOXA1とGATA-3との発現と臨床病理学的因子および予後との関連が示唆されれば、新しい予後因子などが明らかとなり、医学上の貢献はあるものと考えます。

## 【研究機関・組織】

九州大学大学院 消化器・総合外科(第二外科)

教授 前原 喜彦

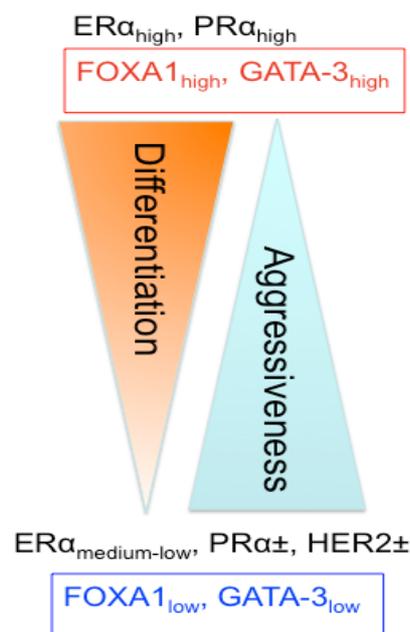
准教授 掛地 吉弘

講師 森田 勝

特任講師 徳永 えり子

大学院生 久松 雄一

図. 乳癌の分化・進行におけるホルモンレセプターと転写因子の発現との関連性



連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5466

准教授 掛地 吉弘